



2006年8月31日

日本国外務大臣  
麻生太郎殿

## 要望書・質問書

日ごろ、私ども日本国民のためのご尽力に心より御礼申し上げますとともに、以下の問題につき、大臣以下外務省の更なるご支持を賜りたく、ご受領・ご検討を心よりお願い申し上げます。

趣旨：

当団体は、アフリカ中心に途上国に根強い子宮ろう問題に取り組む国内初の団体であるところ、この問題への関心・支援の重要性については、近年国連人口基金を中心に、国際・母子福祉問題支援に関わる政策決定者において急激な高まりを見せており、その故を持って日本の対外政策においても、同問題に対する認識を高め、今後のアフリカ・アラブ・アジア諸分布国支援政策に反映されたく、ここに、同趣旨の要望書、関連しての質問事項を提出させていただきますのでよろしくお取り計らいください。

当団体について：

フィスチュラジャパン（代表・中山道子）は、2005年5月に発足した任意の非営利団体です。その趣旨は、エチオピアのアジスアベバ・フィスチュラホスピタルの無料治療活動を支援し、子宮ろう問題について、日本国内に広く意識啓蒙を働きかけていくところにあります。活動会員数36人。現在NPO法人化に向けて準備中。詳細はHP、<http://www.fistula-japan.org> を参照のこと。

この問題の概要：

子宮ろう（obstetric fistula、産科フィスチュラ、産科ろうこう）とは、長時間による難産の結果、産婦の産道、つまり、膣部に孔（あな。ろうこう＝瘻孔）があいてしまう症状。医療アクセスの欠如（帝王切開など）や妊産婦の骨盤未成熟（若年出産、栄養失調）が背景にある。胎児は通常死産に終わり、産婦は、膣からの糞尿垂れ流しや下半身障害、感染症の合併などに悩まされることになる。300ドルからの手術により、9割が治癒し、再度出産可能になる。分布地域は、サハラ以南を中心とするアフリカ、一部アラブ諸国、一部アジア諸国。

この問題への国際的取組み：

- 1974年 世界初の無料専門治療院、アジスアベバ・フィスチュラホスピタル、エチオピアに開業
- 1989年 WHO 報告において世界の患者総数が約 200 万人と推測される。
- 2003年 国連人口基金、Global Campaign to End Fistula 展開開始。
- 2004年 アジスアベバ・フィスチュラホスピタル累計治療総数 2 万人達成。UN Population Award 受賞。  
日本政府「人間の安全保障基金による子宮ろう対策に対する支援」決定（国連人口基金、ナイジェリア、パキスタン、マリ。総額総額 364 万 6,500 ドル）。

#### 一般的な要望事項

外務省におかれましては、以下の背景に留意されながら、子宮ろう問題につき、関係各部署において認識を深め、在外関係公館における情報収集、対外・また対内連携体制をとりつつ、各国の子宮ろう問題支援に取り組まれてたく存じます。

子宮ろうの発生率は、1000 分の 3 とも言われるが、その実態はほとんど掌握されていないので、まずは、分布各国における早急な調査研究の実施が求められている。ちなみに、日本国内でも発生事例は現在も報告され、数は少ないながら、専門医も存在している。

子宮ろうの社会的原因は、早婚、貧困（栄養失調）農村部における医療アクセスの欠如などに求められるので、分布各国における児童・女性の権利の確立や農村部の交通改善、医師等の育成・派遣や医療施設の建設等が求められている。

ここ数年、長らく「知られざる疾病」であった子宮ろう問題に対する急激な知識の広まりや予算の配分が認められ出した反面、熟練医療スタッフ・専門病院が欠如しているために、同問題への経験が不足なまま、未熟な医療行為が実験的に施されたり不適切な予算配分が行われる危険性が指摘されているので、同問題本格支援に乗り出す場合は、同問題について長期にわたる実績のある機関との提携が特に求められている。

#### 具体的な質問・要望事項

現在、外務省内で国際母子福祉（international maternal health）問題に関連する支援に携わっている各部署における子宮ろう問題についてのこれまでの検討結果、実施政策、今後の関与の方向性について、担当者名を合わせ、ご教示をお願いします。

同問題につき、上の関係部署担当者を通し、当団体が、日本唯一の本問題専従民間団体として情報提供・交換や公式あるいは非公式な意見交換・連携により、国際母子福祉問題の最新のシンボルとなりつつある子宮ろう問題に日本政府が効果的に取り組めるよう、協力体制を確立できるよう、お取り計らい願います。

#### フィスチュラジャパン

代表中山道子（公衆衛生学修士、ハーバード大学公衆衛生学大学院）

104-0061 東京都中央区銀座 1-22-12 ノルン株式会社気付 フィスチュラジャパン

<http://www.fistula-japan.org>

電話 03-5159-9890